

令和5年度 事業計画書

目 次

I 総括

- | | |
|--------|---|
| 1 基本方針 | 1 |
| 2 重点項目 | 1 |

II 事業計画

- | | |
|--------------------------|----|
| 1 調査啓発事業 | 2 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 | 3 |
| 3 資源化事業 | |
| 3-1 剪定枝等処理事業 | 4 |
| 3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 | 5 |
| 3-3 施設管理受託事業 | |
| (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 | 7 |
| (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 9 |
| (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 10 |
| (4) 札幌市リサイクル団地管理事業 | 11 |
| 3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 12 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 13 |

I 総括

1 基本方針

公社を取り巻く経営環境については、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつあり、令和5年3月13日からは、マスク着用ルールが緩和され、個人の判断に委ねられたところであり、令和5年5月8日からは、感染症法上の位置づけについても、現在の2類から5類に移行されるなど景気の持ち直しが期待され、ごみ収集量の増加が見込まれる。

一方、ウクライナ情勢を背景とした国際的な原材料価格の上昇や円安の影響等によるエネルギー・食料価格の高騰など厳しさが増しており、事業者への影響が懸念されるなど、依然として先行きの不透明な状況が継続している。

こうした状況を踏まえ、今後の経営環境の変化に適切に対応するためにも、引き続き下記2の重点項目に取り組み、基幹事業である「事業系ごみ収集運搬事業」を着実に推進するとともに、施設を安定的に稼働するため、老朽化に伴う財政需要の増加に対応するなど、公社の基本姿勢である「持続可能な事業運営の確立」に向けた取組を進め、今後も札幌市と連携しながら、廃棄物の適正処理・リサイクルを進めていくことを目指す。

2 重点項目

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化と顧客サービスの向上

ごみ量の変化に対応した効率的な収集体制の確立と、関係各社と連携した取組やインターネットの活用などによる顧客サービスの向上

(2) 施設の計画的な整備・保全管理

「中沼・駒岡資源選別センター」の老朽化対策

(3) リサイクル等に関する調査研究

将来の事業につながる新たなリサイクル技術等の調査研究

(4) 顧客や市民への積極的な情報発信

ごみの減量・リサイクルの推進や公社の取組に関する積極的な情報発信

(5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

事業環境の変化や社会のニーズに対応した事務・事業の再編・再構築や、効果的・効率的な支出の徹底

II 事業計画

1 調査啓発事業 (予算額 48,288 千円)

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発

■令和5年度事業計画

(1) 調査研究事業

①事業系紙おむつのリサイクルに関する調査

高齢化社会に伴う介護需要の増加により、事業系紙おむつの排出量の増加が見込まれる。札幌市における現状を把握するため、令和4年度は、潜在量、排出状況等についてアンケート等を実施した。令和5年度も引き続き、リサイクル方法に関する調査などを実施する。

②剪定枝等の受入状況調査

これまで順調に運営してきた剪定枝等処理事業であるが、この数年、受入量の減少傾向が続いている。令和5年8月からは石狩新港地区におけるバイオマス発電事業の開始に向けて、事前ストック用の剪定枝等の受入が開始される予定であり、更に受入量の減少が予想される。

今後の事業運営の検討資料とするため、令和3年度からチップ工場で受入れる剪定枝等の発生場所や業種毎の搬入量等について調査を実施しており、令和5年度も調査を継続する。

(2) 普及啓発活動

①広報活動

- ・当社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を発行し(250部)、関係先に配布する。
- ・びん・缶・ペットボトルのリサイクルの普及啓発のため、小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を発行し(16,000部)、市内全校に配布する。
- ・市内の小学校4年生から、びん・缶・ペットボトルのリサイクル等に関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当会社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」とする啓発活動を行う。
- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信する。

②イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

- ・例年参加している「環境広場さっぽろ」は、令和5年度はG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催記念イベントとなる「環境広場ほっかいどう2023」として開催される予定であり、当イベントに出展して、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発を行う。
- ・「さっぽろこども環境コンテスト」その他各種イベント等への協賛のほか、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行う。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業（予算額 64,923 千円）

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設（公社が無償借り受け） ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

【選別品目と活用方法】

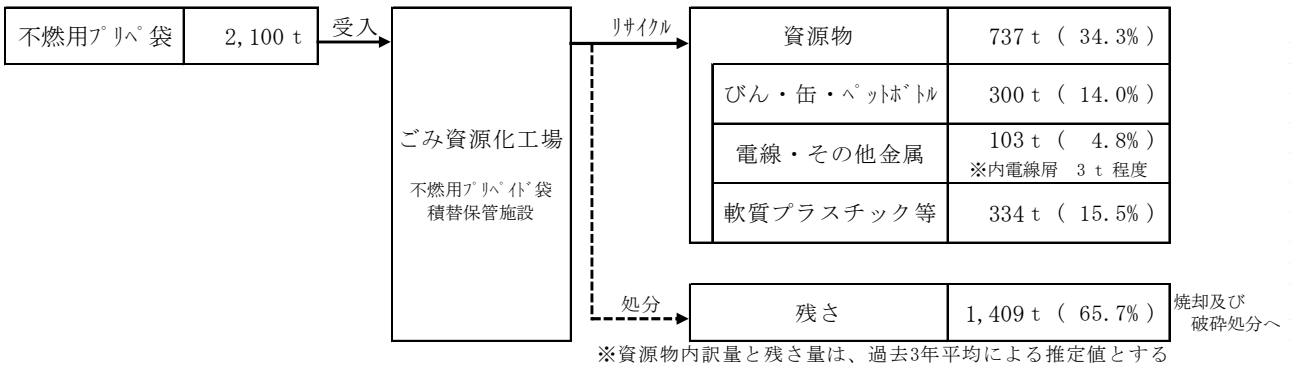
選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原材料として活用

■令和5年度 事業計画

項目	計画	摘要
不燃用プリペイド袋受入量	2,100 t	前年度計画比 5.0% 増、前年度実績見込比 0.9% 減
資源物	737 t	前年度計画比 9.3% 増、前年度実績見込比 3.3% 減

※設定根拠：公社事業系ごみ収集運搬計画に基づき設定

【参考】図2-1 令和5年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業計画フロー図



【参考】表2-2 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画（※4年度 は見込、同上段は計画値）

項目	直近3年間の実績				R05年度 計画	摘要 (令和05年度計画の状況)	
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均			
受入量	2,019 t	1,948 t	2,000 t 2,119 t	2,029 t	2,100 t	計画比 5.0% 増 実績見込比 0.9% 減	
資源物	びん・缶・ペットボトル	277 t	281 t	313 t	290 t	300 t	
	電線・その他金属	101 t	94 t	104 t	100 t	103 t	※内電線屑 3 t 程度
	軟質プラスチック等	313 t	308 t	345 t	322 t	334 t	
	資源物合計	691 t	683 t	762 t	712 t	737 t	
残さ	1,366 t	1,308 t	1,410 t	1,361 t	1,409 t		
リサイクル率	33.6%	34.3%	35.1%	34.3%	34.3%	資源物合計/(資源物合計+残さ)	

3 資源化事業（予算額 1,298,475 千円）

3-1 剪定枝等処理事業（予算額 50,331 千円）

■事業概要

事業経緯	平成20年9月の旧札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成20年10月から当社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料やボイラー熱源、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和63年3月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、有償で会社が借り受け 横型回転破碎機(15t/h)×1基、振動篩等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化

【受入対象物】街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】幹は直径80cm以内、長さ2m以内

根は最大寸法（直径または長さ）1m以内で、土を落としたもの

【チップ仕様】45mm以下（用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整）

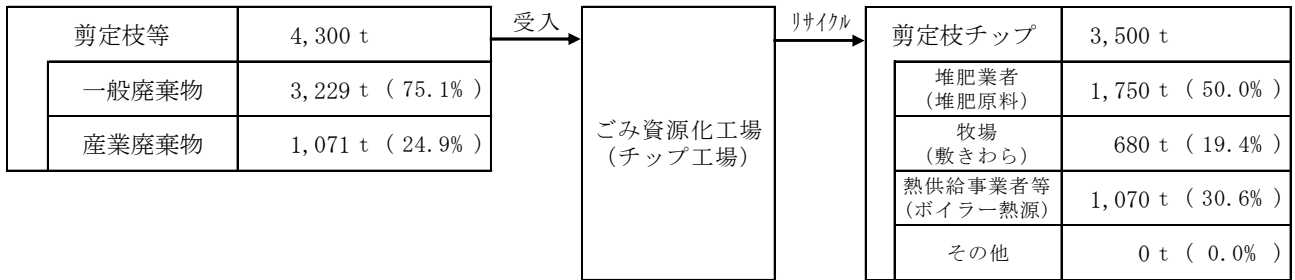
【供給先】堆肥生産事業者（堆肥原料）、熱供給事業者（ボイラー熱源）、牧場（敷きわら）

■令和5年度 事業計画

項目	計画	摘要
剪定枝等受入量	4,300 t	前年度計画比 28.3% 減 前年度実績見込比 23.7% 減
チップ搬出量	3,500 t	前年度計画比 22.2% 減、前年度実績見込比 24.6% 減

※設定根拠 受入量：バイオマス発電事業者の剪定枝有価買取による受入量の減少を考慮して設定。
チップ出荷量：受入量に見合う数量を設定。

【参考】図3-1 令和5年度 剪定枝等処理事業 事業計画フロー図



※内訳量は「剪定枝等チップ出荷計画」による

【参考】表3-2 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画（※4年度 は見込、同上段は計画値）

項目	直近3年間の実績				R05年度 計画	摘要 (令和05年度計画の状況)
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均		
剪定枝等受入量	6,323 t	6,074 t	6,000 t 5,633 t	6,010 t	4,300 t	計画比 28.3% 減 実績見込比 23.7% 減
チップ出荷量	4,301 t	5,378 t	4,500 t 4,643 t	4,774 t	3,500 t	計画比 22.2% 減 実績見込比 24.6% 減

3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業（予算額 1,034,881 千円）

■事業概要

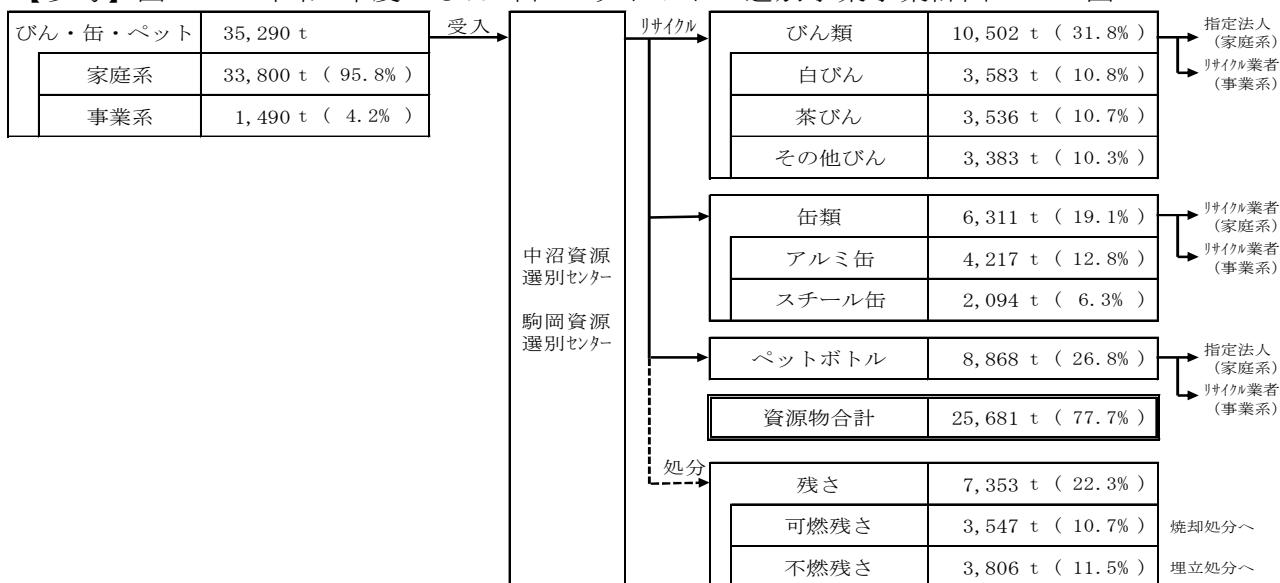
事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。 令和3年10月からは、札幌市が「びん・缶・ペットボトル」の日に別袋収集する乾電池の選別・梱包・保管する作業を行っている。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 36.7 t/日(8h)×3系列=110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 38.5 t/日(8h)×2系列= 77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

■令和5年度 事業計画

項目		家庭系	事業系	合計	摘要
受入量	中沼資源選別センター	22,442 t	1,085 t	23,527 t	
	駒岡資源選別センター	11,358 t	405 t	11,763 t	
	合計	33,800 t	1,490 t	35,290 t	前年度計画比 1.0% 減 前年度実績見込比 1.9% 減

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び公社びん・缶・ペットボトル搬入計画に基づき設定

【参考】図3-3 令和5年度 びん・缶・ペットボトル選別事業事業計画フロー図



【参考】表3-4 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画（※4年度 は見込、同上段は計画値）

項 目	直近3年間の実績				R05年度 計画	摘 要 (令和05年度計画の状況)	
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均			
受入量	36,831 t	(計画値→) 36,638 t	35,660 t 35,986 t	(計画値→) 36,485 t	35,290 t	計画比 1.0% 減 実績見込比 1.9% 減	
	家庭系	(計画値→) 35,647 t	34,400 t 34,554 t	(計画値→) 35,210 t	33,800 t	計画比 1.7% 減 実績見込比 2.2% 減	
	事業系	(計画値→) 1,184 t	1,260 t 1,432 t	(計画値→) 1,275 t	1,490 t	計画比 18.3% 増 実績見込比 4.0% 増	
資源物搬出量	びん	11,330 t	11,135 t	10,745 t	11,070 t	家庭系のみ 指定法人ルート	
	白びん	4,061 t	3,829 t	3,650 t	3,847 t		
	茶びん	3,698 t	3,655 t	3,649 t	3,667 t		
	その他びん	3,571 t	3,651 t	3,447 t	3,556 t		
	缶	6,560 t	6,642 t	6,439 t	6,547 t		
	アルミ缶	4,216 t	4,398 t	4,318 t	4,311 t		
	スチール缶	2,344 t	2,244 t	2,121 t	2,236 t		
	ペットボトル	8,632 t	9,039 t	9,207 t	8,959 t	びんと同様	
	資源物搬出量合計	26,522 t	26,816 t	26,391 t	26,576 t	25,681 t	
	残さ	可燃残さ	4,065 t	3,832 t	3,627 t	3,841 t	3,547 t
埋立残さ		3,925 t	3,833 t	3,953 t	3,904 t	3,806 t	
残さ合計		7,990 t	7,665 t	7,580 t	7,745 t	7,353 t	
リサイクル率	76.8%	77.8%	77.7%	77.4%	77.7%		

※リサイクル率＝資源物搬出量合計／(資源物搬出量合計＋残さ合計)

※令和05年度計画は「令和5年度 資源物等搬出計画量」による

【資源物の引き渡しについて】

- 札幌市収集分の資源物については、資源物の種類ごとの市況に応じ、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じた指定法人ルートまたは札幌市が再商品化事業者と直接契約する独自ルートのいずれかで再商品化事業者に引き渡している。
- 公社が収集した事業系の資源物（搬入量比で案分）については、札幌市の家庭系資源物が指定法人ルートまたは独自ルートのいずれかで引き渡し先となったリサイクル業者（再商品化事業者）を相手方とし、公社が独自に別途契約して引き渡している。

■重点事業

平成10年10月から稼働している中沼・駒岡資源選別センターの老朽化が進んでおり、施設の計画的な保全を行っているところであるが、建屋の外壁改修については、令和4年度に駒岡資源選別センターについて実施済みであり、引き続き中沼資源選別センターについて実施する予定である。

3-3 施設管理受託事業（予算額 177,674 千円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当公社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当公社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。また、これらの施設は新設された分岐棟を除き、いずれも老朽化が進んでいることを踏まえ、札幌市と連携して適切な運営管理に努める。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 （ごみ資源化工場、篠路破碎工場、分岐棟） (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施

■令和5年度 事業計画

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（予算額 78,669 千円）

【管理対象施設】

①ごみ資源化工場及び貯留サイロ等

- ・RDF工場（平成2年3月完成）、チップ工場（昭和63年3月完成）、貯留サイロ（昭和61年6月完成）
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて、ごみ資源化工場で固形燃料を生産、貯留サイロで保管する施設で、固形燃料は熱供給事業者へ供給している。

②篠路破碎工場等

- ・篠路破碎工場（昭和55年12月完成）
- ・自己搬入ごみ、大型ごみ等を受入れ、破碎処理している。

③分岐棟（インフラ供給施設）

- ・付帯施設※に代わる受変電設備等のインフラ供給施設（令和3年8月完成）
- ※付帯施設（旧清掃工場）は解体工事中（令和7年3月 工事完了予定）
- ・受変電設備、蒸気暖房設備、給排水設備、消火設備等を備えており敷地内各施設への供給等を行っている。

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、ごみ資源化工場、篠路破碎工場及び分岐棟等の円滑な運営のため、各施設の稼働・保守を目的として札幌市が別途発注する各種業務・修繕等の調整・確認等を行うとともに、施設設備の維持管理を行う。

- ・別途発注業務
 - ①ごみ資源化工場： 運転業務、固形燃料運搬業務、定期整備業務等
 - ②篠路破碎工場： 設備等運転業務、可燃物等運搬業務、分岐棟等運転業務、計量及び徴収業務、定期整備業務、篠路清掃工場解体工事等

【令和5年度事業計画】

ごみ資源化工場（RDF工場）

項目	計画	摘要
ごみ受入量	14,028 t	前年度計画比 8.0% 減、前年度実績見込比 1.3% 増
固形燃料生産量	12,144 t	前年度計画比 9.7% 減、前年度実績見込比 4.0% 減
固形燃料出荷量	12,750 t	前年度計画比 3.8% 減、前年度実績見込比 5.5% 減

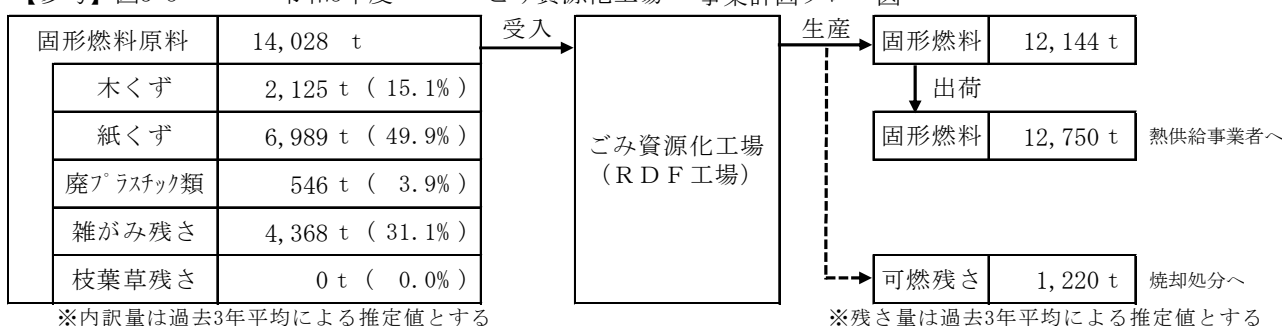
※設定根拠：札幌市ごみ処理計画に基づき設定

篠路破碎工場

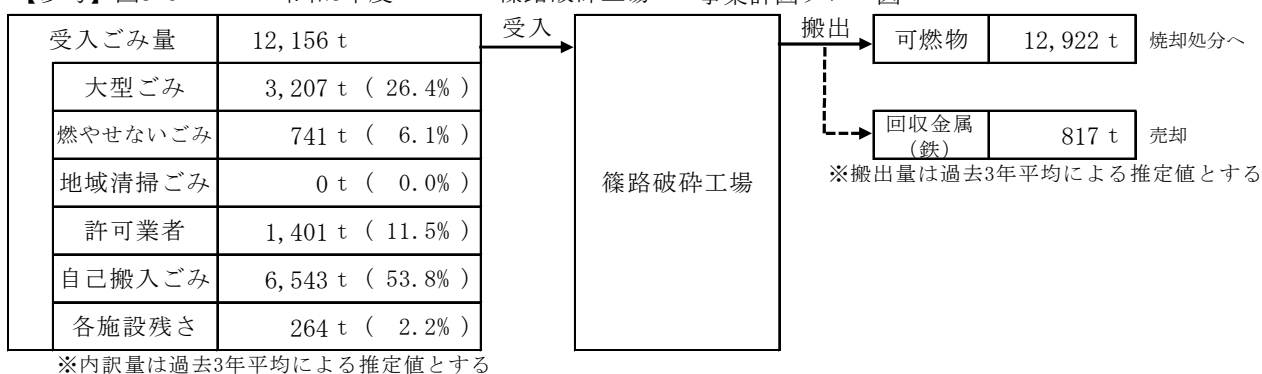
項目	計画	摘要
ごみ受入量	12,156 t	前年度計画比 21.9% 増、前年度実績見込比 5.4% 増

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画に基づき設定

【参考】図3-5 令和5年度 ごみ資源化工場 事業計画フロー図



【参考】図3-6 令和5年度 篠路破碎工場 事業計画フロー図



【参考】表3-7 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画 (※4年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R05年度 計画	摘要 (令和05年度計画の状況)
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均		
資源化工場 (RDF)	ごみ受入量	14,611 t	13,843 t	15,242 t 13,844 t	14,028 t	計画比 8.0% 減 実績見込比 1.3% 増
	固形燃料生産量	12,692 t	12,038 t	13,443 t 12,644 t	12,144 t	計画比 9.7% 減 実績見込比 4.0% 減
	固形燃料出荷量	13,309 t	12,079 t	13,248 t 13,492 t	12,750 t	計画比 3.8% 減 実績見込比 5.5% 減
篠路 破碎工場	ごみ受入量	12,375 t	10,858 t	9,973 t 11,529 t	12,156 t	計画比 21.9% 増 実績見込比 5.4% 増
	可燃物搬出量	13,133 t	11,496 t	10,990 t 12,324 t	12,922 t	計画比 17.6% 増 実績見込比 4.8% 増
	金属(鉄)搬出量	924 t	723 t	696 t 689 t	817 t	計画比 17.4% 増 実績見込比 18.6% 増

(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（予算額 41,172 千円）

【管理対象施設】

中沼プラスチック選別センター

- ・平成12年6月完成 処理能力82.6t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す施設
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等

【事業内容】

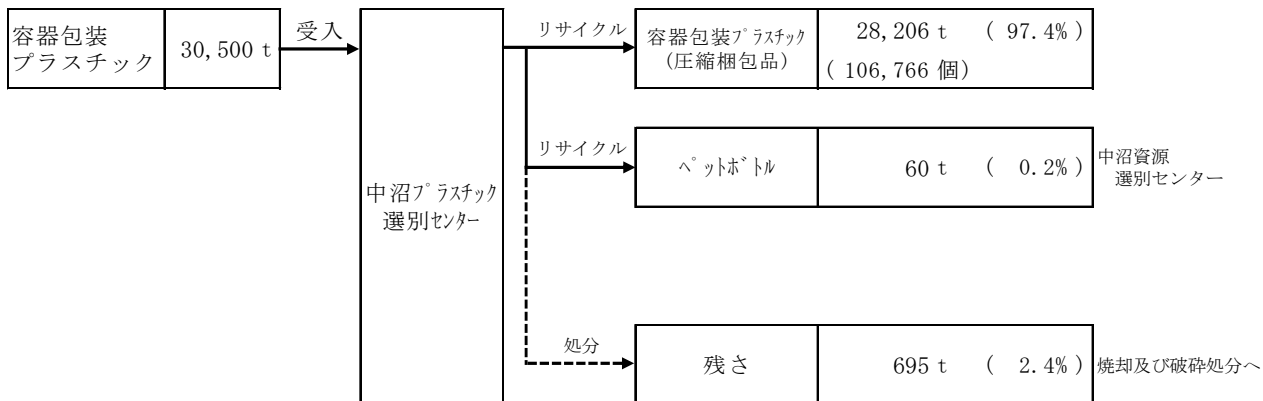
- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。
- ・別途発注業務：プラスチック選別センター運転業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

【令和5年度事業計画】

項目	計画	摘要
容器包装プラスチック受入量	30,500 t	前年度計画比 0.7% 増、前年度実績見込比 1.7% 減
圧縮梱包品引渡量	28,206 t	前年度計画比 1.7% 減、前年度実績見込比 0.4% 減

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び事業実績に基づき設定

【参考】図3-8 令和5年度 中沼プラスチック選別センター事業計画フロー図



【参考】表3-9 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画 (※4年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R05年度計画	摘要 (令和05年度計画の状況)
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均		
容器包装プラスチック受入量	31,248 t	30,916 t	30,300 t	31,063 t	30,500 t	計画比 0.7% 増 実績見込比 1.7% 減
圧縮梱包品引渡量	28,588 t	27,897 t	28,697 t	28,273 t	28,206 t	計画比 1.7% 減 実績見込比 0.4% 減

(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 29,437 千円)

【管理対象施設】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成21年7月供用開始 (平成9年4月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修)
- ・処理能力85t/日 (2系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成)
- ・市が収集する雑がみを受け入れ、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者に引き渡す施設
- ・再資源化事業者におけるリサイクル用途は再生紙、トイレトペーパーの原料等

【事業内容】

- ・公社の実施内容は、建物や設備等を適正に維持管理するとともに、札幌市が別途発注する関連業務や関係者等との調整を図り、円滑に資源物の処理を行うなど、施設の安定的な管理、運営を行うもの。

- ・別途発注業務 : 雑がみ選別センター運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、定期整備業務等

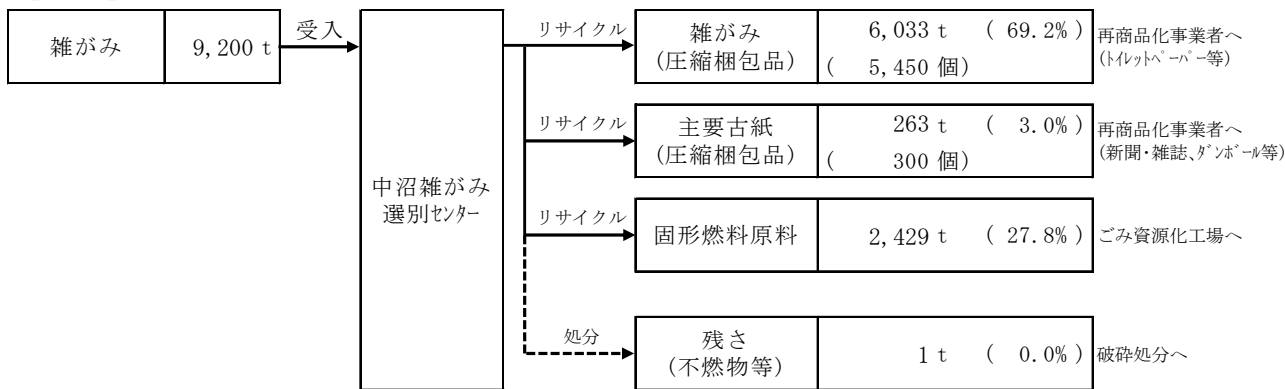
※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【令和5年度事業計画】

項目	計画	摘要
雑がみ受入量	9,200 t	前年度計画比 16.2% 減、前年度実績見込比 1.3% 減
雑がみ圧縮梱包品引渡量	6,033 t	前年度計画比 28.9% 減、前年度実績見込比 11.5% 減
主要古紙圧縮梱包品引渡量	263 t	前年度計画比 25.1% 減、前年度実績見込比 8.5% 減
圧縮梱包品引渡量合計	6,296 t	前年度計画比 28.8% 減、前年度実績見込比 11.4% 減

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び事業実績に基づき設定

【参考】図3-10 令和5年度 中沼雑がみ選別センター 事業計画フロー図



※梱包品数、残さ量は過去3年平均による推定値とする

【参考】表3-11 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画 (※4年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R05年度 計画	摘要 (令和05年度計画の状況)
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均		
雑がみ受入量	9,936 t	8,772 t	10,980 t 9,324 t	9,344 t	9,200 t	計画比 16.2% 減 実績見込比 1.3% 減
圧縮梱包品引渡 量 (雑がみ)	7,228 t	6,370 t	8,488 t 6,817 t	6,805 t	6,033 t	計画比 28.9% 減 実績見込比 11.5% 減
圧縮梱包品引渡 量 (主要古紙)	324 t	267 t	351 t 287 t	293 t	263 t	計画比 25.1% 減 実績見込比 8.5% 減
固形燃料原料	2,039 t	1,797 t	8,839 t 1,920 t	1,919 t	2,429 t	計画比 72.5% 減 実績見込比 26.5% 増

(4) 札幌市リサイクル団地管理事業（予算額 28,396 千円）

【管理対象施設】

札幌市リサイクル団地

- ・札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群
- ・平成6～8年度に札幌市が基盤造成を実施、平成7年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間6社7施設、市有2施設、公社1施設の合計10施設が稼働している。

【事業内容】

- ・当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ①リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ②リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③井水供給設備の維持管理業務
 - ④団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月1回開催）
 - ⑥その他の管理業務

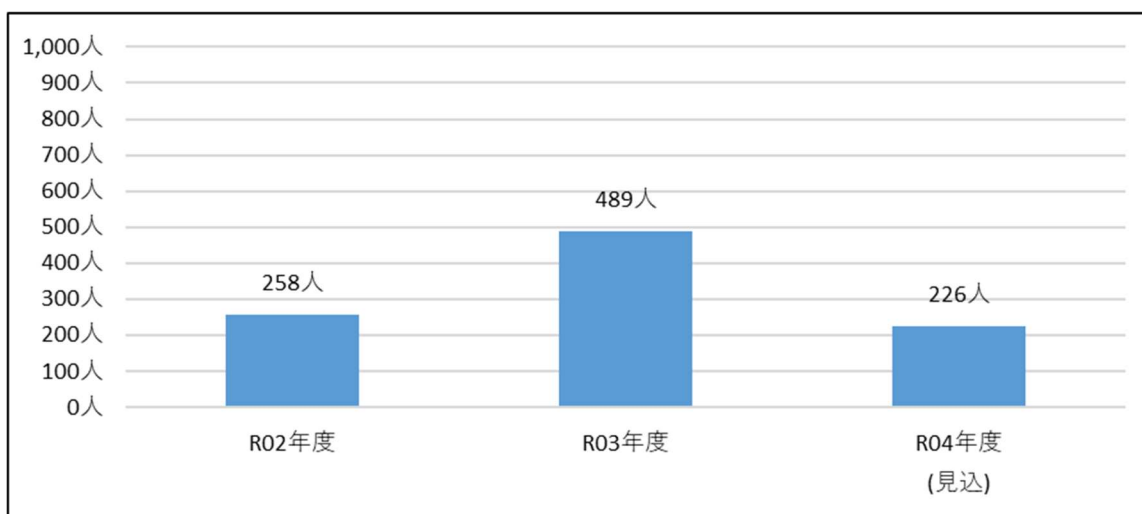
【参考】表3-12 直近3年間の見学対応実績（※4年度は見込み）

項目	直近3年間の実績				摘要
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均	
見学件数	38件	71件	68件	59件	計画値の設定は行わない
見学者数	258人	489人	226人	324人	計画値の設定は行わない

※見学申込みの受付案内は当公社ホームページに掲載

※令和02～04年度は新型コロナ感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は概ね見学中止

【参考】図3-13 見学者数の推移



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業（予算額 35,589 千円）

■事業概要

事業経緯	札幌市が平成 9 年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成 11 年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター（北 1 条西 10 丁目 ユーネットビル 2F）
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施。

■令和5年度 事業計画

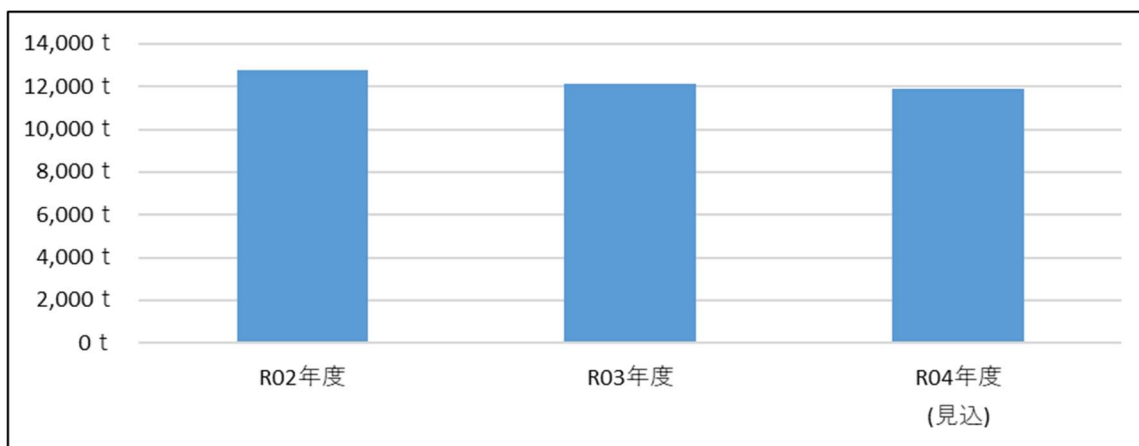
項目	計画	摘要	
受付・問合せ件数	502,198件	前年度計画比	0.3% 減、前年度実績見込比 3.9% 減
収集件数	363,751件	前年度計画比	6.8% 増、前年度実績見込比 1.2% 減
収集個数	906,454個	前年度計画比	7.9% 増、前年度実績見込比 0.9% 減
収集量(重量)	12,100 t	前年度計画比	0.8% 増、前年度実績見込比 1.9% 増

※設定根拠：直近の事業実績に基づき設定

【参考】表3-14 直近3年間の事業実績と 令和5年度 計画（※4年度 は見込、同上段は計画値）

項目	直近3年間の実績				令和05年度 計画	摘要 (令和05年度計画の状況)	
	R02年度	R03年度	R04年度 (見込)	平均		計画比	実績見込比
受付・問合せ件数	521,663件	515,352件	503,930件 522,541件	519,852件	502,198件	0.3% 減	3.9% 減
収集件数	349,118件	353,167件	340,443件 368,305件	356,863件	363,751件	6.8% 増	1.2% 減
収集個数	861,547個	872,078個	839,863個 914,759個	882,795個	906,454個	7.9% 増	0.9% 減
収集量(重量)	12,763 t	12,139 t	12,000 t 11,875 t	12,259 t	12,100 t	0.8% 増	1.9% 増

【参考】図 3-15 大型ごみ収集量推移



4 事業系ごみ収集運搬事業 (予算額 5,818,795 千円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業
実施内容	1 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物の収集運搬 (1) 焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集 (2) リサイクルごみの種類は、「資源化ごみ(紙くず・木くず・軟質プラスチック)」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬
収集先	伝票収集：約10,000事業所、プリペイド袋収集：約24,000事業所
運搬先	「一般ごみ」→白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃用プリペイド袋」「剪定枝」→篠路の資源化工場 「生ごみ」→中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和5年度事業計画(年間収集量)

ごみの種類	収集量:体積 (m ³)	収集量:重量 (t)
一般ごみ	802,764 (754,552)	123,700 (117,900)
資源化ごみ	84,580 (84,510)	6,580 (6,600)
生ごみ	40,580 (42,600)	18,910 (20,000)
不燃用プリペイド	27,719 (26,774)	2,100 (2,000)
剪定枝	2,917 (2,514)	270 (230)
びん・缶・ペットボトル	17,540 (14,530)	1,140 (930)
合計	976,100 (925,480)	152,700 (147,660)
【前年度計画比】	【 5.5% 増】	【 3.4% 増】

※()内は前年度計画量

■ 直近3年間の事業実績

区分	直近3年間の実績				R5年度 計画	前年度比	
	R2年度	R3年度	R4年度見込	平均			
体積 (m ³)	923,288	950,440	1,001,189	958,306	976,100	計画比	5.5% 増
						見込比	2.5% 減
重量 (t)	145,086	146,713	153,037	148,279	152,700	計画比	3.4% 増
						見込比	0.2% 減

■ 重点事業

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

ア 総収集回数の削減に向けた取組

事業所ごとの排出量と当該事業所の収集回数が見合っていない過剰な収集回数が効率化の進まない大きな原因となっているため、収集量と収集回数を整合させるなどにより総収集回数を削減していく。

また、非効率な収集ルートについて、収集件数、取決め事項、走行距離などの要因を、調査・分析して、できるところからルートの統合・再編成などの見直し作業を進める。

イ 受付作業の軽減に向けた取組

プリペイド袋の収集受付については、電話やFAXによる受付作業が事務の大きな負担となっていたことなどから、令和2年10月、WEBサポート機能の「プリペイド袋収集受付システム」を導入した。その結果、現在、令和5年1月末時点で、受注件数14,182件のうち、56.2%の7,976件がインターネットからの申込みとなっており、受付作業の軽減が図られた。

今後も、電話申込みが多い事業所に「プリペイド袋収集受付システム」の利用案内を送付するなど、引き続き、利用拡大に向けた取組を進めていく。

(2) インターネットを活用した顧客サービスの充実

「業務管理システム」の各顧客情報にWEBサポート機能の「年間収集実績」、「請求金額のお知らせ」、「プリペイド袋収集受付システム」の利用登録の有・無、ユーザーID、初期パスワードなどの各アカウント情報の表示機能を追加する。

また、令和2年10月に導入した「プリペイド袋収集受付システム」では、顧客からのプリペイド袋収集の申込みを24時間受付できる体制となり、顧客サービスの向上が図られている。このシステムでは、現在、17:00までに受付したものを翌日収集の対象としているが、「プリペイド袋受注データ自動配車機能」の稼働により夜間の自動処理が可能となっていることから、この受付時間の延長を検討するなど顧客サービスの更なる向上を目指していく。

(3) 業務管理システム携帯端末用プログラムの開発

業務管理システムで使用している携帯端末は、既にオペレーションシステムのメーカーサポートが終了となっており、また令和9年には、端末本体の保守サポートも終了となることから、後継機種移行に向け、搭載されている新オペレーションシステムに対応する端末用プログラム開発を進める。令和4年度は、設計業務を実施しており、令和5年度は、プログラム開発業務及び試験稼働を実施する。

(4) WEBサポートサービス機能維持に向けた検討

インターネットを利用したWEBサポートサービスについては、顧客サービスの向上、事務の効率化に大きく影響しており、特にプリペイド袋収集受付機能については、受注の半数以上を担うまでになり、システムの安定稼働が重要となっている。今後の安定したサービスの維持とシステムの安定稼働に向けては、試験環境機能、予備サーバー的補完機能の整備が必要であるため、環境整備に向けた取組を行う。